

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月29日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4699400067
法人名	医療法人徳洲会
事業所名	グループホームゆりの郷
所在地	鹿児島県大島郡和泊町和泊62番-1 (電話) 0997-92-4166
自己評価作成日	平成31年1月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今までの生活歴や人との繋がりを大切にし、利用者個々のその人らしい暮らしの実現を目指している。

・職員は家族や利用者の親戚の方々とはよくコミュニケーションを取り、家族・親戚の方々がホームに立ち寄りやすい雰囲気となっており、ホームは利用者を中心とした一つの大きな家族となっている。

・毎月、利用者それぞれの家族に健康状態・生活状況・その他様々な情報を手紙で知らせ、利用者の暮らしぶりが伝わるよう工夫している。また家族も利用者を支える一員として協力ができるよう連携を密に取っている。

・保育園児との交流会、大正琴演奏など訪問イベントの受け入れ、敬老の集いに地域の方々を招くなど、地域との繋がりを感じて交流を楽しめるよう努めている。

・母体病院と連携を取っており、希望に応じて定期的に医療的フォローを受けることが出来る。

・災害時に備え、防災マニュアル、非常時持ち出し品、備蓄品等を用意しており、安心に繋がっている。

・ホーム内には写真を飾り楽しかった思い出を共有できる工夫がされている他、季節の花々を飾り明るい雰囲気となっている。ベランダには四季折々の花々や季節の野菜などを植え、季節感や癒しを感じてもらえるような環境となっている。

・職員一人ひとりの能力や得意なことを活かし、不得意なことは職員同士で協力し合いチームワークが取れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、和泊港に程近い丘の上にあり、病院をリフォームし、1階は、家族や地域住民との交流やイベントの場となるスペースがあり開放されている。玄関には、沖永良部島の「えらぶゆり」が活かしてあってひと際、来訪者の目を引いている。一見、病室と見まちがうが、壁には利用者の作品や行事の写真などが掲示してあり、食堂兼リビングは採光もあり家庭的な雰囲気がある。災害対策にも余念がなく、防災用のヘルメット、防災袋や防災グッズなどが搬出しやすいよう玄関横に設置してあり、整理整頓されている。

昨年、母体が医療法人に変更になり、職員の給与体系、待遇などが改善された。職員の関係性も良好で共助の精神が強く、互いに支え合い、勤務変更にも快く応じている。職員は、「気づきノート」を活用して、利用者自身の思いを感じたり職員の気づきが認識できるよう取り組んでいる。研修計画を作成し、法人の研修会では、コミュニケーションスキルの向上や安全管理を目的とした事例の検討などもあり、計画的に研修を受ける機会がある。また、県や大島地区の認知症グループホーム連絡協議会とのネットワークや介護福祉士会、介護支援専門員協議会などのネットワークも活かされ、各会主催の研修会に参加し、スキルアップを図り、全員に研修資料を回覧するなど共有に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝職員と利用者として理念と一緒に唱和し、忘れずに意識し続けられるように努力している。また、理念を目の触れやすい玄関入口、交流室に掲示し、認知症ケアの原点を常に意識しながら実践に繋げている。	開設当初からの理念は、毎朝申し送り後に利用者とともに唱和されている。理念については、管理者が日々のケアを確認しつつ、意識し随時、会話の中で触れるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加、保育園児を招いての交流会の開催、防火訓練時には事前に地域住民に訓練を行うことを知らせるなど、様々な場面で地域住民との付き合いがあり、地域の一員としての役割を果たしている。	自治会に加入し、回覧版や島のローカルテレビを通じて、地域の情報収集を行い、ゴミステーションの清掃活動、美化活動、地域行事への参加を積極的に実施している。また、保育園児を招待してたこ焼きパーティをしたり、ピクニック（ゆり見物など）に行くなど地域とは日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域のイベントなどに参加する中で、認知症の人への理解を得ている。また、地域の方々から認知症の人に対しての支援方法についての悩み・相談があった場合には傾聴し、助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、事業所・利用者の状況などを報告した上で話し合いを行い、サービスの質の向上に活かしている。また、敬老会やバイキングなどに運営推進委員にも参加してもらい、利用者・家族との顔合わせの機会となっているとともにホーム運営への理解を深めてもらっている。	会議は定例化され、家族も交代で参加している。敬老の集いと同時に開催することもあり、昼食にバイキング料理を利用者と楽しみ食を通じて交流をしている。また、会議内容は、事業所内に掲示し、他家族には、要約した文書を郵送するなどして情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の保健福祉課及び地域包括支援センターの職員には、運営推進会議や敬老の集い等のイベントを通して当事業所の実情やケアサービスの取り組みに理解を得ており、協力関係にある。	町職員や地域包括支援センター職員とは、事業所の取り組みを知っていただきながら、電話相談や面談などを行い、相互に協力関係を築いている。成年後見制度利用の方などもおられるため関係機関の専門職との多職種連携も図れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議及び身体拘束廃止検討委員会、各種研修会に参加する中で、禁止の対象となる具体的な行為及び身体拘束の弊害を理解している。事故防止のために行う漫然とした身体拘束が行われないよう、問題意識を共有し、安全かつ自由な暮らしのケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止検討委員会があり、指針を整備し適性化に向けてより一層拘束等の弊害について意識向上を図っている。職員には、「気づきノート」に記録を残し、情報を共有しながら、定例会議で話し合っている。研修会や勉強会も定期的実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について内外の研修会に参加し学んでいる。また、日々の心身の状態の観察を行う中で注意を払うとともに、言葉で尊厳を損ねることの無いよう意識し、尊厳のあるケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を受け学んでいる。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、家族の不安軽減につながり安心して暮らすことができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、運営規定・重要事項説明書・契約書について説明を行った上で利用者や家族の不安・疑問点を尋ね、じっくり話し合う機会を設けている。契約内容に変更が生じた場合、文書で説明し署名・捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは日頃から意見を気軽に話してもらえるよう信頼関係を培っている。また、無記名でも投函出来るご意見箱を設置し、苦情等を受け付けている。運営推進会議には家族代表も参加してもらい、意見・助言等を運営に反映させる体制が出来ている。	管理者は、請求書に看護記録や利用者の生活の状況をありのままに記した手紙を同封し毎月郵送しており、利用者や家族との信頼関係が最優先だと認識している。島外の方には、FAXにて情報提供することもある。面会時、なるべく多くコミュニケーションを図るよう心がけており、家族などの面会は多く、担当者会議にも積極的に参加をもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に対し職員からは個別ケアの相談やその他業務について意見・提案・相談等がその都度ある。また朝の申し送り時や毎月の職員会議時、職員全員で話し合いを行った上で意思の統一を図り、業務に反映させている。	昨年、母体が医療法人に変更し、職員の給与体系、待遇などが改善された。職員の関係性も良好で共助の精神が強くなり、互いに支え合い、勤務変更にも快く応じている。管理者との個人面談があり、「気づきノート」を活用して利用者の思いを共有し、個別ケアを心がけケアの統一を図るなど質の高いケアを目指し実践している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭と仕事が両立出来るよう職員の休日希望を取った上で勤務割当を作成している。個々の能力を活かす役割を分担したり、個々のスキルに応じた賃金アップなど、やりがいのある職場づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の職員研修計画を立て、計画的に研修を受ける機会が得られるようにしている。また、年間計画以外の様々な法人内外の研修会にも積極的に参加している。全体的に参加率は高い。また、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を積極的に勧めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>当該地区の管理者同士は日常的に交流し、情報交換を行っている。また、県や大島地区の認知症グループホーム連絡協議会とのネットワークや介護福祉士会及び介護支援専門員協議会などのネットワークもある。各会主催の研修会に参加し、スキルアップを図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、本人が困っていること、不安なこと、要望等、その他の思いをゆっくり聞いている。親しく話せる雰囲気作りを心掛け、入居初期には特に安心感が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、家族の思いをじっくり傾聴している。要望・心配な事・不安な事その他利用者の普段の生活の様子・心身の状態等を特に初期には詳しく聞き、支援に活かすことで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居開始時、本人・家族がその時点で必要としている支援が何であるのかコミュニケーションを図り、アセスメントを通して本人・家族等が望む暮らしが実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の繕いや洗濯物畳みなど出来ることを行い、役割を持ってもらうことで、暮らしを共にする者同士の関係となるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康状態や生活状況を手紙で家族に伝え、何か問題があれば、具体的な解決方法を家族と一緒に考え協力を得ている。誕生会には家族を招いて一緒に祝ったり、その他事業所内行事に参加してもらい、家族とともに本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会や祭りなどへの参加は、親戚や知人と出会う機会となっており、お互い喜ばれている。また、行きつけの美容室の利用など、これまで大切にしてきた馴染みの人・場所との関係が途切れないよう支援している。	行きつけの美容院でお茶を頂いたり、地域の敬老会、イベントごとに参加、家族と外食したり、ひ孫などのお遊戯会の観覧に出かけたり、また、知人や友人が面会に来られるなど馴染みの関係が途切れず行きたい所に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人柄や認知症の症状等を考慮し、食堂の座席位置を決めている。マイペースな方、積極的に他者と関わろうとする方、それぞれのペースで利用者同士が関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転所したり、長期入院による退去後、面会を行う中で本人・家族の不安軽減に努め、これまでの関係性が途切れないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や様子から、利用者の思いや望む暮らしを把握している。意思疎通困難な方は、表情・行動等から思いを推測して対応している。そして、それらはケアプランに活かし職員間で共有している。	本人の思いは家族と共有出来るよう努めているが、誕生日は本人の誕生日に家族と一緒に祝いをしてコミュニケーションを取るようになっている。職員は、「気づきノート」に記録を残し、カンファレンスや担当者会議などで話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた居宅介護支援事業所より、基本情報や支援経過記録、在宅介護計画等を提供してもらったり、本人・家族から生活歴や健康状態、こだわり等の情報を収集し、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時、夜勤者は夜間帯の様子を早出・日勤者へ申し送りをする。遅出は夜間日誌と気づきノートを読み、現状把握に努めている。日勤者は次の夜勤者へ情報を伝えており、切れ目なく利用者の現状把握が行われている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は本人、家族、介護職から情報を収集した上でアセスメントを行い、課題を抽出し、介護計画を作成している。また、職員会議では、利用者一人ひとりについての個別ケアを検討し、問題があれば解決のための工夫等を話し合い、職員間で統一したケアを行っている。	本人の趣味活動や生きがいが反映された介護計画書になっており、毎日、モニタリングを実施して定期的に目標の達成度などを確認して見直しも柔軟におこなっている。担当者会議には、家族の参加があり、利用者の思いや意向を確認して情報を共有し利用者本位の計画書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践は個別記録に記入している。気づきや工夫などは気づきノートに記載し、情報を共有し、統一したケアに活かしている。また、心身状態に変化が見られた際には、介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院支援を行っている。その他、自宅訪問、外泊支援などを行う他、家族で行う年の祝いに備えての準備、思い出の写真の提供など柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、運営推進委員（町の保健福祉課職員、地域包括支援センター職員）を敬老会に招き、協働的に敬老会を開催した。その他、ゆりの郷便りを通して民生委員、利用者の出身集落の区長へ生活状況を伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	6名は母体病院がかかりつけ医で、月1回、訪問診療を受けている。緊急時には連携を取り、早急に治療を行うことができ、本人・家族の安心感に繋がっている。3名は、本人や家族の希望する在宅生活からのかかりつけ医での受診を支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、協力医の訪問診療や外来受診にて適切な医療が受けられている。外来の定期受診は家族に依頼し、文書による情報提供や同行したりするなどして連携している。それぞれの医療機関は異なるが24時間医療連携が図れる体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化や日々の心身状態を把握し、受診時にはかかりつけ医へ、訪問診療時には訪問看護師に報告し、適切な医療が受けられるよう連携を取っている。また、異常がある場合、早急にかかりつけ医及び訪問看護師と連携を取り、重度化防止への対応を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、主治医や看護師と情報交換を行っている。昨年7月に利用者が入院した際には、看取りの方針の確認や今後の方針について病院職員や親戚、成年後見担当者話し合いを行い、早期退院を勧めた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応に関する指針について、本人及び家族等に十分に説明を行った上で、意向を確認している。終末期ケアは、本人・家族が望む場合、医療機関と連携を取り、看取りの支援が行えるよう取り組んでいる。	契約時、重度化や終末期における対応に関する指針にて、本人、家族に事業所の方針を説明し同意をもらっている。事前の意思確認書があり、段階に応じて確認書の取り直しをしている。一昨年、看取りの実績があり最期まで家族とともに看取りができ、家族からは感謝の手紙を頂戴している。職員は達成感が持て、これまでの経験を踏まえ今後も柔軟に取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年に2回受け、救急救命士による緊急時の対応方法を学び、職員全員が応急手当や初期対応が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導のもと、昼・夜を想定し防火避難誘導訓練を年2回実施している。災害時は、近隣の民生委員及び母体病院職員も駆けつけてもらえるよう依頼している。また、災害時に備え、防災マニュアル、非常時の持ち出し品、備蓄品等を整備している。</p>	<p>避難訓練を実施する時は、地域周辺にビラを配り、協力や参加を呼びかけ消火器の取り扱い方を説明し消火訓練と一緒に実施している。自主点検は2ヶ月毎におこない、チェックリストで備品や在庫品の点検をおこなっている。管理者は、自家発電機の購入を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉かけや対応をしている。不適切な言葉遣いや記録に対しては、管理者が気付いた時にすぐ指導している。廊下から居室の様子を直視出来ないよう、ついで立を利用し羞恥心やプライバシーの確保に努めている。	管理者は、職員のケアの状況を把握し、不適切な言葉使いや対応などがあつた場合などは、時間を置かず注意したり、研修会などで全職員に対して人権擁護の観点から人格を否めるような対応がないよう職員教育を徹底している。衝立を活用し居室のプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のささいな事柄についても、本人の意思を確認し、自己決定を促している。また、意思疎通困難な方には、表情やしぐさ等で思いを感じ、ケアに活かすよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、就寝など一日の流れは一応決められているが、本人の希望や体調によって臨機応変に変更している。本人のペースでうたた寝、テレビ鑑賞、家族と外出など個々の希望に沿って楽しく過ごせる暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	敬老の集いでは、女性の入居者はお化粧をしておしゃれを着て参加して頂いている。馴染みの美容室で白髪染めやパーマをかけることを楽しみにしている方がいる他、爪のおしゃれでマニキュアを塗る方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	差し入れの野菜の繙いや、定期的におやつ作りを楽しんでいる。誕生日や敬老の集い等、家族と一緒に食事を楽しめる支援をしている。また、食べたい物を聞いたり、美味しい味付けの方法を聞いてメニューに取り入れたり、料理の味見をしていただいている。	食事形態を工夫したり、家族や地域から差し入れられた野菜を活用し献立を作成している。利用者は、誕生日のケーキの飾りつけや料理の下ごしらえなど能力に応じた手伝いもあり、初詣や花見にはおやつを持って出かけている。ピクニックには弁当を持って出かけ外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事・水分量を記録し把握しており、 食事摂取量の少ない方には補助食 品などで補食してもらっている。水 分量の少ない方は生姜湯や黒糖茶 など甘い飲み物を提供している。嚥 下障害のある方にはトロミを付けて 提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨き（介助・自立）、うが い、ガーゼでの拭き取りなど、利用 者の個々の能力の応じた口腔衛生保 持を行っている。義歯は毎日洗浄剤 で殺菌している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、排泄 パターンや回数・量・性状などを把 握。可能な限りトイレやポータブル トイレでの排泄を促し、出来るだけ 自立した排泄動作が出来るように支 援している。また、利用者の様子か ら、言葉にならない尿意便意を推測 し、排泄の失敗を防いでいる。	布下着、おむつ対応の方もおられる が、ほとんどの方が失禁が減り、不潔 行為もなくなるなどしている。職員 は、排泄チェックシートを活用して排 泄のリズムを把握し、トイレやポー タブルトイレを併用し排泄の自立支援に 取り組んでいる。ポータブルトイレに は布が掛けてあり、プライバシーに配 慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の含有量が多い食事を提供 し、水分摂取にも配慮することで自 然排便を促している。また、必要時 には腹部マッサージや薬剤使用にて 排便を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴日は決めてあるが、面会、体調、気分によって変化する本人のタイミングに合わせて臨機応変に調整している。皮膚トラブルのある方は毎日の入浴で清潔を保っている。	皮膚の清潔保持のため、毎日入浴される方もおられるが、基本的には、週2回支援、個々の希望や入浴方法やタイミングに合わせて入浴介助している。浴室は、ユニットバスで廊下からスロープを設置し移動の安全性が確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその時々状態や気持ちに応じて休息出来るように支援している。夜間の不眠時は日中休息が取れるよう配慮したり、夜間の睡眠がよく取れるよう日中の活動性を上げる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬剤の情報をファイル「薬のしおり」で情報共有し、効能・用法・容量・副作用について理解している。また、誤薬が無いよう、ダブルチェックを行っている。体調変化を把握し、主治医・訪問看護師へ相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来ること、出来ないことを把握し、実施可能な役割が継続できる支援を行っている。また、コーヒー・紅茶などの嗜好品の他、ベランダでの外気浴や散歩・ドライブなど気分転換を図ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、近隣の散歩や自宅・公園・港などへのドライブを行っている。家族やボランティアの協力を得て、初詣・花見・ピクニック・地域の祭りへの参加などを楽しんでいる。また、家族と一緒に外出することは日常的に支援している。	港まつり、農業祭演芸、町内や島内一周駅伝の応援やえらぶジョギング大会の応援に行ったり、文化祭の見学、近隣の公園、港、初詣、花見、ピクニック、地域の祭りなど年間に外出する機会が多く、本人の希望や体調を把握し家族や地域の方に協力をもらいながら無理のないよう計画し外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの方は家族が必要な物を準備しているためお金を所持していないが、中には少額を所持し、孫やひ孫に小遣いを渡す方も居る。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持っている方の操作の代行や、電話の取り次ぎなどの支援を行っている。また、家族や親戚から差し入れがあった時、お礼が電話で伝えられるよう援助している。また、手紙やはがきの代読を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>通りに面しているものの、車の往来は少なく静かな環境である。ベランダや道路から玄関までの通路及び室内には鉢植えの花々や観葉植物を飾り、季節感が感じられる。廊下には家族との写真や行事の写真を飾っており、楽しい空間となっている。食堂と厨房は対面式で、会話が弾み明るく家庭的な雰囲気となっている。</p>	<p>玄関には、季節の生花が活けられ、廊下を中央に右側に居室、トイレ、洗面所、地域交流室、浴室があり、左側に居室、事務所、和室が配列されていて、一番奥に食堂兼リビングがあり、対面式のキッチンになっている。2階からの眺望は素晴らしく、明るい共有スペースである。「人の道」と書いたちぎり絵や園児との交流や外出先での写真などや利用者の作品が掲示され、季節を感じながら生活感溢れる空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂でうたた寝やテレビ鑑賞、雑談など思い思いに過ごしている。廊下で写真をじっと鑑賞したり、居室でテレビ鑑賞する方も居る。職員は利用者同士のコミュニケーションが心地良いものになるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使い慣れた家具や寝具類、テレビ等を家族と相談して持ち込み、馴染みの品々に囲まれた居心地良い居室で過ごせるように工夫している。息子の遺影に毎日水を供え、花を飾り、話しかけて思いを馳せている方も居る。職員も利用者個々が大切にしてきたことを継続できる支援をしている。</p>	<p>居室で食事をしたり、面会の知人や親戚、子供達と我が家のような環境で過ごす方やアルバム、人形、テレビなどの使い慣れた品を持ち込み、歩行の目印になるよう床にカラーテープが張ってある方など安全面に配慮し過ごしやすい工夫がされている。また、廊下からの視線を遮りプライバシーに配慮した衝立が各居室に設置してある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室前には、表札や人柄の分かるコメント、家族との写真を飾り、利用者個々の居室が分かるように工夫している。廊下には物を置かないようにして、利用者が自由に、そして安全に移動できるように配慮している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない